

セミナー参加報告書

草津市議会議長
西村 隆行 様

令和 7 年 2 月 12 日
草津市議会 草津維新の会
報告者：田中 詩織

I 行政視察の概要

1. 日 時 令和 7 年 2 月 9 日（日）14 時～17 時半
2. 開催地 長岡京市中央生涯学習センターバンビオ 4 階学習室 1
3. 内容 1)参加者にてディスカッション（詳細は下記に記載）
2)市民参加型合意形成プラットフォームについて
3)八幡市長川田翔子さんと考えるまちづくり
4. 参加者 草津市議会 草津維新の会 田中 詩織

II セミナー内容

1. 京都府宇治市の市立中学校 3 年生が提出した市立中学校の校則のあり方についての請願が 1 月 29 日の市議会本会議で採決された。採決に加わった市議 26 人のうち賛成は 7 人で、不採択となった件についてディスカッションが行われた。
《請願内容》
 - ・さまざまな立場の生徒も交えて学校のルールメイキングができる土壌をつくること
 - ・生徒が自己決定・自己判断のもと自主的に行動できる雰囲気をつくる
 - ・学校のルールをホームページに記載し、ルール作成に至った経緯も含めていつでも確認できるようにすること
2. 市民参加型合意形成プラットフォームについて、株式会社 liquitous 栗本拓幸氏の講演。事業背景や目標について、既存の政策形成プロセスの課題やデジタルが実現する新しい政策形成プロセスのコンセプトについて説明された。また、市民参加型プラットフォーム（オンラインプラットフォーム）を各自治体の取り組み例と合わせて紹介された。発展的な活用ケース、今後の可能性について、既存の自治体デジタル化、DX ソリューション等との連携等についてもふれての講演。
3. 八幡市長の川田翔子さんより、「八幡市のこれからについて」～魅力と活力あふれるまちづくりを実現するために～と題しての講演。講演内容は、八幡市の紹介、自己紹介、原点、広聴の取り組み、市議会との対話、組織内対話、課題認識に基づく重点項目、ご自身の想いや大切にしていること等。

Ⅲ セミナー受講を終えて

1. 各グループで半分に分かれて、賛成と反対を入れ替わって議論するというスタイルが取られた。反対意見としては、「校長の権限であり議会ではない。」「議会に言うべきか、学校・PTA・生徒会での自治はどうか。」「一部の生徒のみの参加とならないか。」「校則をまとめて議論することは不要。」などの意見があった。一方、賛成意見としては、「主権者教育の視点から重要である。」「自分たちでルールを決めることは当然である。」「子どもの権利条約やこども基本法の意味表明権である。」などの意見があった。主催者の趣旨としては、どちらの意見も考えて、全体を俯瞰して自分の意見を考えて欲しいということで、両意見とも他にも多くの意見が出された。校則についての考え方は賛否両論あるが、子どもの意見の尊重、子どもたちで考え作るルール、校則の明文化、公開についてはどの学校でも対応すべきであるとする。今回の宇治市の例では、中学生が出した請願についてこのような結果になったことは重く受け止めなければならない事案であると感じた。今の議会のあり方、会派や党のあり方についての課題が浮き彫りになったのではないかと感じた。また、アドバイスする大人の立場であれば、こどもたちにとって一番よい方法に導くことも必要だと感じた。
2. 市民の声が届きにくい現実があり、オンラインプラットフォームは多くの市民の意見を集める方法として新しい方法であり興味深い。草津市でもパブリックコメントの回答数は少なく、広く多い意見を集める方法としてパブリックコメントより効果的であると思う。しかし、回答の重み、信頼度については課題があるように感じた。AI を使用した市民の意見の聴取や分析についてのメリットもあると同時にデメリットについても考えなければならないが、オンラインと対面での声をトータル的に評価することにより、両者のデメリットを補えるのではないかと考える。また、対面とオンラインでは年齢層が違ってくることもあり、対面とオンラインを繰り返し行うことでより信頼できるものになり、より効果的な意見を集めることができると考える。多くの意見を集めることが目的ではなく、政策への反映を目的とすることは忘れてはならない重要な点である。
3. 川田市長は市民との直接対話を大切に 1 年で外勤公務 577 件されたとのことで、広く市民の声を聞き市政への興味関心を持ってもらうきっかけを作られていると感じた。オンラインプラットフォームとは逆の方法であるが、AI やデジタル技術が革新的に進んでも、一番大切なことは対話と現場に足を運ぶことであると思う。対話を大切にされる姿勢が周囲の理解を得ることにつながっているのではないかと感じた。市長になられた思いにはご自身の経験や環境が影響しているとのことで、そういった思いのもとに立ち上がった市長の意思の強さを感じる講演であった。組織内環境を整える取り組みの中でも、報酬以外でのモチベーションを上げる取り組み等や考えについては共感できることばかりで、今後の変化を追ってみたい。

Ⅳ 参考資料 セミナー資料（別添）